

2018年11月実績概要（メモ）

（2018.12.20）

エチレン生産が前年並みとなる中、誘導品の生産は定修や稼働率要因から増減に差が出る。

1. 生産動向

イ) エチレン 559,600トン

前月比 + 1.3% (+ 7,200トン)

前年同月比 ▲ 0.4% (▲ 2,000トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	—
定修要因等	+ 1.6%	—
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 2.9%	▲ 0.4%
生産増減率	+ 1.3%	▲ 0.4%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.1%→ 当月98.0% ← 前年同月98.3%

定修プラント：前月1社1プラント→ 当月なし ← 前年同月なし

本年1～11月の累計生産量 5,593.3千トン、前年同期比▲6.1%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減があるものの主に定修規模差からLD、PP、PS、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの13品目がプラス。塩ビ樹脂、塩ビモノマーなどの4品目はマイナスとなった。

前年比では、主に定修規模差や稼働率要因からLD、HD、PS、塩ビモノマー、MMAモノマー、ベンゼンなどの11品目がマイナス。PP、AN、SBR、キシレンなどの6品目は稼働率要因等からプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数減があったが、定修規模の減少や稼働率要因からLD、HD、PP、PSともにプラスとなった。

前年比では、LD、HDは稼働率要因、PSは定修規模差等からそれぞれでマイナスとなった。PPは稼働率要因から大きくプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、前月の出荷が例年と比べて高めであった。また、直近の原料動向も日をおって様変わりの様相を呈したこともあり、当月はLD、HD、PPの3樹脂ともにマイナスとなった。

前年比では、LD、HD、PPともにマイナス。出荷分野別では主用途のフィルム分野の出荷が前年割れの状況が続いている中、LDでは電線被覆分野、HDでは中空成形分野、パイプ分野、PPでは射出成形分野がプラスとなるなど出荷分野によってまちまちの結果となった。PSは主力の包装分野の出荷が前年並みに留まるもFS分野等の出荷減少もあり、こちらもマイナスとなった。

ハ) 輸出

輸出はLD、HDでは引き続き最低レベルの輸出量が続いている。前月比ではLD、PP、PSがマイナス、HDは若干のプラスとなった。

前年比では4樹脂揃ってマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PPで増加し、PSのみが減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PPで上昇し、PSは低下した。在庫水準としては、LD、HDはやや高めの水準、PP、PSはタイト傾向となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		10末	11月末
LD	+11,900	3.1	3.3
HD	+2,100	3.2	3.4
PP	+11,600	2.4	2.6
PS	▲11,200	1.3	1.1